



# 「科学の芽」賞に寄せて

～ IMAGINE THE FUTURE. の精神を大切に～

山田 信博

世界には環境問題、エネルギー・資源問題、人口爆発や少子高齢化の問題、格差の問題など地球規模で解決しなければならない課題がたくさんあります。そして、ITの普及や交通の発達による、地域や国を超えての地球規模化（グローバル化）は猛烈なスピードで進行していることも、私たちの時代の大きな特徴です。みなさんにはこのような地球規模の課題に挑戦し、グローバルに活躍することを期待しています。筑波大学の目標でも、「個性と自立を基軸とし、世界が直面する問題の解決に主体的に貢献する人材の創出を目指す」としています。

人類の創造的活動の発展には、何よりも社会全般のゆとりが必要でした。約20万年前に人類が誕生した後、約1万年前の農業、牧畜に始まる人類社会の生産活動の進歩は、徐々に社会のゆとりをもたらし、若者たちはその若いエネルギーを日々の生存のための闘いから知的探求に向けることができるようになりました。そして約900年前頃から、若者の創造力が発揮される場である大学が、学生と教師の集まる組織として中世のヨーロッパ各地で次々と創設され、まずボローニャに最初の大学が始まり、つづいてパリ大学、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学などが歴史を刻み始めました。その後の大学の発展により、社会の近代化は格段と加速し、大学は社会の活力や国造りの源泉、社会の心としての機能を発揮するようになりました。今日の知的社会や科学技術の進歩の基礎が大学を中心に形成され、産業革命やIT革命、科学技術の進歩、市民社会の成熟やグローバル化につながります。アメリカでは約400年前の1636年にハーバード大学が創立されましたが、日本では明治維新（1868年）後のこととなります。

本学の前身校である師範学校は1872年に創設され、本年が140周年を迎えます。大学は若者たちの能力や才能が最大限に発揮されるように、長い歴史をかけて育てられてきた人類の叡智<sup>えいち</sup>の賜物<sup>たまもの</sup>ともいえるべきものです。そこでは、若者たちの知的好奇心が満たされ、若者たちが自ら未来を切り拓く能力を養います。大学はいつまでも若者にとって、未来への魅力ある創造的、知的活動の場所であってしかるべきです。大学

における高いレベルでの個性豊かな優れた教育や研究は若者の想像力へ大きな刺激となり、質の高い研究や若い研究力が、さらに新しい社会の充実へと連鎖していきます。ぜひ、みなさんにも大学の存在意義を感じながら、これからの勉学を続けてもらいたいと思います。

さて、みなさんは将来どんなことをしようと思いついて描いているのでしょうか。これから10年後、20年後の世界がどれだけ変化しているか想像してみてください。きっと、私たちの想像以上のスピードでたくさんの変化が起こることでしょう。ふしぎなことや未来のことを想像すると興味は尽きません。そして、想像できないような新しい地球規模の問題も生じているかもしれません。ふしぎだと思うことや、もっと知りたいと思う好奇心、人の役に立ちたいというような気持ちは、私たちが科学に関心を持つ出発点、動機になります。みなさんの動機を大事な出発点にして、<sup>なぞ</sup>謎がとけるように学び、考え、想像してください。私たちは未来を想像しながら未来を創造したいと思っています。筑波大学では想像することが未来を開くと考え、筑波大学のスローガンを「IMAGINE THE FUTURE.」と表現しています。相対性理論を発見したアインシュタインは、「想像力は知識よりも大切だ。知識には限界がある。想像力は、世界を包み込む。」と述べています。みなさんは科学を通じて、世界がどんどん広がることをこれから実感するはずです。

「科学の芽」賞は平成18年度の朝永振一郎博士生誕100年記念事業としてスタートしました。筑波大学では、本学の前身である東京教育大学の学長を務めるなど、本学にゆかりのあるノーベル物理学賞受賞者の朝永振一郎博士の功績を<sup>たた</sup>称え、それを後続の若い世代に伝えていくとともに、小・中・高校生を対象に自然や科学への関心と芽を育てることを目的としたコンクールを行い「科学の芽」賞を授与することとしました。朝永振一郎博士が科学について述べた次のような文が残っています。「ふしぎだと思うこと　これが科学の芽です　よく観察してたしかめ　そして考えること　これが科学の茎です　そうして最後になぞがとける　これが科学の花です」この朝永振一郎博士の科学の心を、みなさんと共有したいと考え、このコンクールを「科学の芽」賞と呼ぶことにしました。これまでに日本国内のみならず海外からも多くの応募があり、若い人たちの新鮮な発想や、柔軟な観察眼に接することが毎回楽しみになっています。日本の子供たちの学力の低下や理科離れが話題になっていますが、コンクールを通じて子供たちが科学の心を育み、科学の楽しさを体験することを実感しています。今後さらに多くのみなさんが参加することを期待しています。

【筑波大学長】